

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	姫島村立姫島小学校							計	教員数
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級		
学級数	1	1	1	1	1	1		6	
児童数	22	23	24	30	26	28		153	10

・研究の概要

1．研究主題

一人ひとりが楽しく取り組む算数学習 ～きめ細かな学習指導の工夫～

2．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

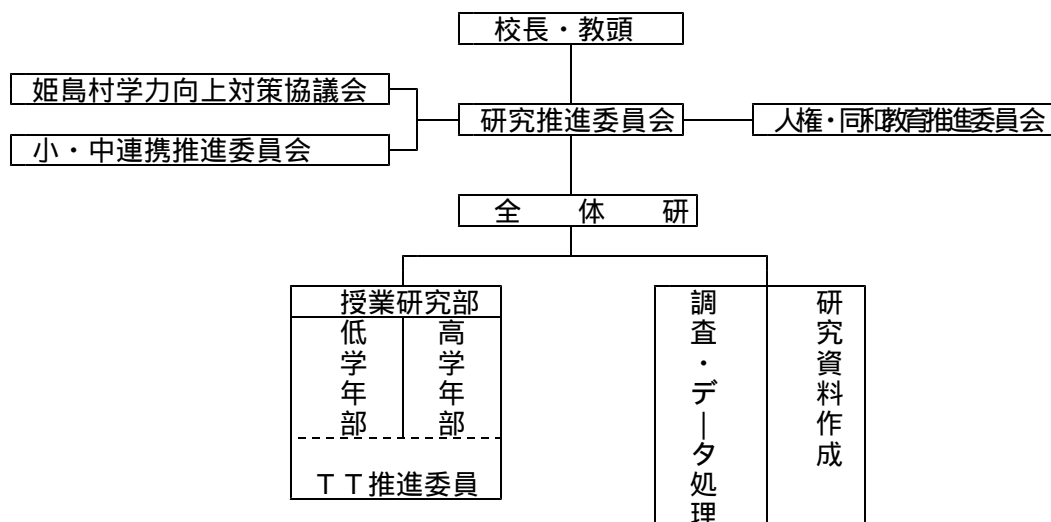
・全学年算数・・・児童の習熟の度合いに最も差が出やすい教科であり，13年度より当該教科の研究を進めてきたため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 一人ひとりが楽しく取り組む算数学習～きめ細かな学習指導の工夫～ 仮説 以下のような取り組みをしていけば、子ども一人ひとりが算数の力を身につけ、楽しく算数学習に取り組むであろう。 算数的な活動の中から効果的な活動を取り入れ、どの子も興味・関心を持って学習に取り組める工夫をする。 ティームティーチングなどを通して、個別指導や課題別学習や習熟度別学習などの学習形態を工夫する。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1．きめ細かな学習指導（算数）の工夫 (1) 全学年の算数をTTにし、個別指導や課題別学習などを行い一人ひとりを生かす。 (2) 算数的な活動を取り入れた問題解決学習を工夫し、学ぶ楽しさを実感させる。 (3) 小中9カ年の系統性を大切にする指導計画</p> <p>2．実態把握の取り組み (1) 診断的学力検査（NRT）算数の分析と対策 (2) 学力診断テスト「計算テスト」の取り組み (3) 観点別到達度学力検査（CRT）算数の分析と対策 (4) レディネステストの実施と回復指導の取り組み</p> <p>3．基礎学力の基盤（学習の土台）を鍛える取り組み (1) 「読み・書き・計算」を発達段階に応じて鍛える取り組み (2) 保・幼・小・中を通しての読書力育成の取り組み</p> <p>4．中学との連携の取り組み (1) 小中スクラムプランの作成 (2) 小中教職員の相互乗り入れやTTによる授業 (3) 小中合同校内研究会の実施 (4) 児童・生徒の交流の促進 ・幼小中連合での体育大会や姫島中文化祭への参加など (5) 情報の交流の促進 ・小学校卒業後の学習や生活などの追跡調査など</p> <p>5．家庭学習の習慣化にむけて家庭との連携を深める取り組み ・学力把握に基づいての個別懇談の実施など</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 一人ひとりが楽しく取り組む算数学習～きめ細かな学習指導の工夫～</p> <p>研究仮説 1. 問題解決の学習過程において、子どもの思考の流れに沿った学習過程と活動意欲が高まる算数的な活動の取り入れ方を工夫していけば、主体的な学習活動が展開され、子ども一人ひとりが楽しく算数学習に取り組むであろう。 2. ティームティーチングの指導において、個別指導や課題別学習・少人数学習などの学習形態を工夫し、子どもの学習状況に応じた支援をしていけば、一人ひとりが算数の力を身につけ、楽しく算数学習に取り組むであろう。</p> <p>《低学年部仮説》 問題解決の過程において、子どもの共感、驚きや感動、困難、矛盾やズレが生まれるような素材と出合わせ、具体物・半具体物の操作や体験活動を多く取り入れれば、問題をイメージ化でき、自分で探したり答えを出していこうとしたりして楽しく算数学習に取り組むであろう。</p> <p>《高学年部仮説》 学習課題に対する子ども一人ひとりの見方・考え方の傾向をつかんで指導方法を工夫すれば、追求の意欲がわき、楽しく学習に取り組むであろう。</p> <p>研究内容・方法 1. きめ細かな学習指導（算数）の工夫 （1）子どもの思考の流れに沿った本校独自の問題解決的な学習過程を工夫し、活動意欲を高める算数的活動を取り入れることにより学ぶ楽しさを実感させる。 （2）全学年の算数をTTにし、個別指導や課題別・コース別少人数指導などを取り入れ、児童一人ひとりの学習状況に応じた指導を行う。 （3）小中9カ年の系統性を大切にされた指導計画の作成 2. 個に応じた評価のあり方とその生かし方 本年度、指導と評価の一体化の観点から追加 （1）児童の実態把握の取り組み ・ 診断的学力検査（NRT）算数の分析と対策 ・ 事前(レィネリスト)・形成・事後の評価と回復指導の取り組み （2）指導に生きる評価計画表の作成 3. 基礎学力の基盤（学習の土台）を鍛える取り組み （1）「読み・書き・計算」を発達段階に応じて鍛える取り組み ・ チャレンジタイム、かにっ子タイムの実施 （2）保・幼・小・中を通しての読書力育成の取り組み ・ モーニング読書、家庭読書の推進 4. 小中連携の取り組み （1）小中スクラムプランの実施 （2）小中教職員の相互乗り入れやTTによる授業 （3）小中合同校内研究会の実施 （4）児童・生徒の交流の促進 ・ 幼小中連合での体育大会や姫島中文化祭への参加など （5）情報の交流の促進 ・ 小学校卒業後の学習や生活などの追跡調査など 5. 家庭学習の習慣化にむけて家庭との連携を深める取り組み ・ 学力把握に基づいての個別懇談の実施など ・ 基本的な生活・学習習慣調査の分析と対策</p>
平成16年度	<p>テーマ（平成15年度と同じ予定）</p> <p>仮説（本年度の成果を明らかにした後見直しをする。）</p> <p>研究内容・方法（本年度の成果を明らかにした後見直しをする。）</p>

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究の成果及び今後の課題

成果

1. 全国標準学力検査NRTにより個々の児童や学級全体の学力の状況を客観的に把握し、その実態に応じて学習指導計画を立てたり、補充・回復指導を実施することができた。
2. 全校一斉に、チャレンジタイム、かにかっ子タイムを位置づけることで全職員での協同体制が整った。
3. 全学年算数TTを生かして、確かな学力向上のための多様な指導形態（少人数指導等）による指導ができた。
 - ・作業的・体験的な活動に取り組む場面での算数的活動の支援。
 - ・一人ひとりのつまずきを見取り、習熟の度合いに応じた指導。
 - ・課題をもち、その解決に取り組む場面での課題別指導。
 - ・グループ別の話し合いの場での話し合い方や思考の手助けなどの支援。
4. 小中連携で教員の専門性を生かした指導や児童・生徒理解が進んだ。
 - ・小学校から中学校へ・・・数学（1～3年）TTとして指導
 - ・中学校から小学校へ・・・数学（6年TT）、音楽・美術(専)教員による指導
 - ・6年生は、中学校の数学教員を含んでの3Tで小・中の系統性や発展性を加味した指導。

課題

1. 習熟度別学習を含めて少人数指導についてはさらに教職員で共通理解をし、保護者の理解や協力を得ていく必要がある。
2. 望ましい生活のリズムや家庭学習の習慣化などが学力の向上に大きく関係してくる。保護者との連携をより一層密にしていかなばならない。（家庭学習の習慣化、家庭読書等）
3. 小中連携の面から
 - ・小中9カ年の系統性を生かした指導計画を作成する必要がある。
 - ・小中の移動による時間のロス、時間割の作成の難しさ、打ち合わせ時間の確保が困難などの問題がある。

・学力等把握のための学校としての取り組み

学力検査の実施・・・教研式診断的学力検査（NRT）（5月実施）
生活習慣・学習習慣アンケートの実施・・・基本的学習習慣の指導に向けて（6月）

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度 公開研究発表会開催予定・・・平成16年11月12日(金)

- ~~~~~
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無